

## 令和 8 年度流山市地域公共交通活性化協議会 第 2 回市民分科会

【日時】 令和 8 年 8 月 2 5 日（金） 午後 1 時 3 0 分～

【場所】 流山市上下水道局 大会議室

【資料】 資料 1：議事次第

資料 2：スライド資料

（令和 8 年度流山市地域公共交通活性化協議会 第 2 回市民分科会）

資料 3：スライド資料

（令和 8 年度流山市地域公共交通活性化協議会 第 2 回市民分科会）

資料 4：出席者一覧

【議事】

藤井会長（日本大学）

出席委員については一覧を御確認いただくということでよろしくお願いします。

会議の成立等について、定員の確認について、事務局、よろしくお願いします。

事務局

現時点で、出席者は 6 名、欠席は 3 名。なお、欠席委員 1 名からは委任状を提出いただいている。委員の半数以上の出席があるので会議は成立していることを報告する。

藤井会長（日本大学）

それでは、会議成立という形で進めてまいる。会議はおおむね 3 時頃を目指して進めてまいりたい。

あと、本日は傍聴を希望されている方がおられる。内容的に特に非公開とする必要はないと思うが、公開という形でよいか。

（「はい」の声あり）

藤井会長（日本大学）

それでは、傍聴の方に入っていただきたい。

（傍聴者 入室）

藤井会長（日本大学）

それでは、議題 1 から進めてまいりたい。

#### <議題 1 木三丁目地区における公共交通導入の検討について（協議）>

##### 藤井会長（日本大学）

「議題 1 木三丁目地区における公共交通導入の検討について（協議）」、事務局より説明をお願いしたい。

##### 事務局

（資料 2 スライド資料を基に説明）

##### 藤井会長（日本大学）

具体的に木三丁目地区からということで提案があり、アンケート調査等を実施した上で、その状況を明らかにしてきた。その上で、活性化協議会の協議のほうに移りたいという意向を事務局は持っているということ。

それに併せて、協議会の有無を別にして、民間事業者にも協力を頂くようなバス停の屋根、上屋の設置についてもお願いするということだ。

1 つ、皆様方に情報を共有しておかなければいけないのは、16 ページを見ていただくと、地図のところにメッシュで 2 つ赤くなっている。この地区は 2 つだけが問題かというのと、どうもそうではなさそうだというのがアンケートの集計結果から出てきている。というのは、これまで皆様方に御議論いただいていた第 1 章での拠点駅を増やすことをこれまで行ってきた。それを実際に今回のシステムに反映させて具体的な一般化時間での検討地域を洗い出したのだが、右側のほうにオレンジのラインで「こぶし公園」というバス停がある。これは行き先が異なっているのだが、この「こぶし公園」の影響を受けてということで、最寄り拠点駅まで行くに当たって木三丁目地区の方たちの一般化時間は 30 分以内に収まっているというのが恐らく現状として見えてくる所かなと思う。そうなってくると、今、木三丁目地区は、地区住民のアンケート結果でいくと、基本的には南流山駅の利用に向いているということで、拠点駅整備はしたものの中には利用する拠点駅が異なっている。そのような地域性を持っていることで、具体的な調査をしたことによってエリア設定をしたときの目的地が完全に異なる形態、このような地域性を持っていることで、更なる検討が必要になる可能性が非常に高い。そのようなこともひとつ皆様方に情報を共有させていただきながら少し検討したほうが良いと思っている。

その辺を含めて、ただいまの事務局の説明に関して御質問、御意見があれば。

##### 長橋委員（流山商工会議所）

商工会議所を代表して出席しているが、集計等、細かくやっていただいて御苦労さま。実

はそもそも論で感じたのが、木三丁目地区のアンケートの回答率が12.7%と、非常に低い。12%の方の意見でいろいろ検討を進めていっていいのかどうか、非常に疑問に感じていて、例えばアンケート調査の回答数が希望される地域の方から出てきたときに、12%の方の意見でまとめるのは非常に危険なような気がして、例えば30%以上ないとだめという規定を設けておかないと、では5%でも検討するのかという話にもなってくるし、12%の人の意見でこの後議論を進めていくのは危なっかしいのではないかという感じをしたので御意見させていただく。

### 事務局

現時点では、申し訳ないのだが、計画にも何%以上という記載はないので来たまま受け付けてしまったという状況では確かにあるのだが、例えば今後の計画の見直しの中で、そういった基準を設けるのもありかなと思うので、今回についてはこの回答者の人数で議論を頂ければ助かるというのが現状だ。

### 藤井会長（日本大学）

事務局としての感覚はいかがか。というのも、今の現計画ではこれはやむなしで、基本的にはこういう条件を設定しているので、手を挙げた自治会あるいは町会がまとまって5人以上だったか、そこからある意味旗揚げしてもらおうと議論にのると。これはもう間違いない。それで制限できるような数値設定がなされていないので議論にはつながってくるのだが、今お話のように、ちょっと危うさも秘めている。ここをどのように評価していくか。そのときに、これまで事務局は地域の中に入っていっていろいろな意見交換あるいは調査をしていることもあるので、これまでの地域の感触を事務局はどのように捉えているか、その辺もお話いただけるとありがたいかなと思うが。

### 事務局

実はこの地域が設立したのは令和7年6月なのだが、それ以前から要望は盛んに上がってきてはいた。アンケート実施は今回LINE等で行ったということも聞いており、期間で言えば1年以上、組織としては続いているものでもあり、また、自治会長を中心に公共交通に関する検討をしているという意味では、ある程度まとまりのある組織と認識はしている。ただ、人数については、この結果を見て初めて分かったところもあるが、例えば今回、2ページに年齢層がグラフ化されている。30代、40代で70%という割合が出ている。これは、前回、この地域の特性ということで住民基本台帳から持ってきた、この地域の高齢化率と照らし合わせることができると思う。実はこの地域は、前回もお話したように、区画整理事業が行われたばかりで、新しく引っ越してこられた住民が多くて、若い世代が多い。まさしく、30代、40代の方が、今回のアンケート結果と同じような割合の年齢構成でこの地域は成り立っていることが1つ言えると思う。絶対数の回答者数としては少ないかもしれな

いが、割合としては、この地域に合った割合のアンケート数が出ているのではないかというお答えができると思う。

#### 藤井会長（日本大学）

世帯数はどうか。今回の場合は、アンケートでいうと、個別の調査をしているので世帯関係なしで出てくるかなというところなのだが、世帯数別で見たときに全体の何割ぐらいの回答があるかみたいな感触が、調査結果は、LINE でやっているとなるとなかなか難しいかなという気もするが。

#### 事務局

前回、令和8年7月28日の第2回協議会で実は概要をお示ししていたのだが、人口は1,457人、世帯数は492世帯ということでお知らせしていた。

#### 藤井会長（日本大学）

今回のアンケートの結果が世帯データに近いということであれば、世帯の意向を、ある意味、若い世代の働き手世代が回答したということでの数値として読み取っていくとか、そういういったところの範疇で考えていくしかないかなというところではある。

ただ、今御指摘のように12%でいいのかということはあるので、アンケートとしての妥当性をどのように評価していくか。これは次の改訂した計画の中にはきちんと位置づけておかないと、ちょっと危うくなってくるかなという気がする。

そのほか、いかがか。

#### 杉浦委員（公募市民）

今、長橋委員が言われたように、これもう2日間、夜中の夜中までずっとひっくり返して見ていた。いろいろな情報も出したのだが、言葉は悪いのだが、この地区の人は考え方がすごく甘い。見ていて、これで通すのと思ってしまう。だって、分かっているその地区を買ったのでしょ。私が住んでいる西深井のところは駅から直線で2.6kmある。自治会の長さが660mある。一回、一昨年申請した。でも辞退した。乗る・乗らないをもう一回調査した。もう半数を割ったので辞退した。だけど、これを見ると買い物に行きたいと。ヤオコーがすぐそばにある。中高生と書いてあるが、中学校は右岸調整池から500mしかない。令和6年に中学校は移転しているから。言い方は悪いが、何でと言いたくなる。もっと必要なのはいっぱいある。だけど、乗らないから採算が合わないということで考え直ししようというところもあるわけだ。計算したら駅から約1,216mだったかな。それでも、ほかの人は健康のために「歩け、歩け」でやっている。言っていることと望むことが違う。確かに高齢者、私も今左足を肉離れをやって、歩くのに非常に不自由なのだが、一生懸命歩く。 だけど、12.7%で陳情を申請するという気持ちは、言葉は悪いが考えられない。

もっと要るところがいっぱいある。それを言いたかった。

#### 小西委員（流山市身体障害者福祉会）

資料だけの話で恐縮だが、資料２の年齢の区分けの仕方なのだが、前回の資料は３つに分けている。０歳から１４歳、１５歳から６４歳、６５歳以上ということで人口比率が出ているので、この辺は同じ尺度にしてみようとグラフ的に非常に見やすいのかなと感じた。

あと、４ページの目的地の話だが、松戸や新松戸というのは一人も出てきていない。市内ではないので該当しないという意味なのか。このところは新松戸までかなりの頻度でバスが走っている。６０便から７０便。だから、その辺がそっくり意図的に消えているのか、回答として本当に来ていなかったのか、不思議な感じがする。

アンケートの項目というのは、市役所でこういう項目に関してアンケートを取ってくださいという形で進められるのか、あるいは自治会のほうで考えてアンケート項目をつくられているのか。この辺の実態を教えていただければ参考になるかなと思った。あと、クロス集計という意味がよく分かっていないのだが、後で結構なので、できれば簡単に教えていただきたい。

#### 事務局

２ページの年齢層に関する今回のアンケート結果のまとめ方だが、アンケート項目で年代ごとといった形でアンケート項目を選択式にしていたので、このような結果になったが、前回の協議会でお示ししたのは住民基本台帳から持ってきた０歳から１４歳、１５歳から６４歳、６５歳以上ということで、３パターンにしか分かれていないということでは、この辺の整合が取れないという、見やすさという点では申し訳ない。次回から人口の内訳についてはアンケートと合うような形でお示しできるように是正していく。

４ページの内容については、全てが南流山駅に限定しているという点。ここに新松戸が全くないという点について、再度確認は必要なのだが、選択式になっていなかったかどうか、後ほど確認は取りたい。もしかしたら選択式で、新松戸駅というのが項目になかった場合もあるので、今「その他」という、わずかだが、６人いらっしゃるが、もしかしたらこの中に新松戸という方がいらっしゃるかもしれない。その辺は今後アンケート項目の精査等をきちんとしなければいけないかなと理解している。——今、確認が取れたが、「その他」の中に、新松戸駅と記入した方はいらっしゃるかの確認が取れた。

３点目の御質問、アンケート内容についてだが、本日御用意していなくて申し訳ないが、基本的には一昨年、協議会の中でアンケート内容の標準スタイルを決めた。これに基づいてアンケートをしていただくのだが、地域組織によっては追加項目を設けている場合がある。それは今回お示しできないのだが、アンケート内容の文案は次回の分科会、協議会できちんとお示ししたい。

クロス集計に関しての御質問だが、資料の１０ページからクロス集計ということで始ま

っているが、タイトルの下ぐらいに※印でクロス集計の簡単な解説なのだが、「2つ以上の項目を組み合わせる集計する方法」と書いている。左のほうのアンケート結果のクロス集計は、「①年齢層×⑥移動に関するの困りごと」と書いてある。質問を2つ組み合わせることによって人数を絞り込んでいくという計算方法になっている。2つ以上なので、この後、11ページ、12ページと、どんどん掛け算を多くすることによって、最初の基となる30代、40代の方をどんどん絞り込んでいく。目的、質問別に絞り込んでいくというのが今回のクロス集計の意図と御理解いただきたい。また後ほど細かい解説はできるので、言っていただければと思う。

#### 石幡委員（流山市老人クラブ連合会）

老人クラブ連合会長の石幡だが、先ほどの御意見、アンケートで世帯数が少ないのではないかということに対して、実は私は、この地域をほとんど毎日のように通っているが、行くたびにもう周辺、流山街道の両脇にマンション、一戸建てが増えている。ということで、確かに現時点では世帯数は少ないのだが、今後相当、両サイド、江戸川から流山街道を挟んで新松戸寄り、こここのところの道路沿いには恐らくマンション、そのちょっと奥のところは一戸建てと、このような感じになると思う。ヤオコーとショッピングタウンがあるということで非常に便利だと。聞くとところによると、ヤオコーの中で、ここがベスト3くらいの利用客ではないかというような話も聞いているが、ここに住む方も恐らく新松戸を出るよりもつくばエクスプレスの南流山駅を利用することによって、秋葉原に20分で行くということで便利だということで南流山駅を利用する、拠点とするということで移住してこられる方が多いのだと思う。そういうことから推測すると、私は、あつてしかるべきかなと。実感、肌で感じるが、マンション、住宅が増えている。実は今日も近くを通ってきたのだが、そんな感じを受けているので、私の意見として述べさせていただく。

#### 藤井会長（日本大学）

この地域からの移動の特性としては、南流山駅に向かう、こういうことは想定されるということの御意見かなと思う。

そのほか、いかがか。

#### 町山委員（市民活動団体 親子サロン BLOOM）

子育て団体を代表して、親子サロン BLOOM の町山だが、今、公共交通の導入を希望されているということだが、どこに線をつくろうとしているのか。どこ辺りにバス停などの要望があるのか。

#### 事務局

具体的な路線や交通手段は、今回のアンケート、また地元からの要望はない。あくまでも、

木三丁目地域に関して公共交通を何か導入していただきたいというのが要望のスタートになっている。既存のバス路線がこのように多くあるように見えるが、これではやはり不便だというのが地域に住んでいる方の回答でもあるので、この地域から南流山駅に行く乗り物、まだ公共交通という敷衍した段階でいいと思うが、そういったものを要望されていると捉えていただいていいと思う。

#### 町山委員（市民活動団体 親子サロン BLOOM）

ということは、木三丁目の地域内のどこかなのか。膝丸というのは毎日 33 便走っているという理解でいいか。

#### 事務局

そのとおりだ。

#### 町山委員（市民活動団体 親子サロン BLOOM）

分かった。地図上で見ると膝丸があるので、どのあたりが不便しているのかなというのが気になった。

#### 藤井会長（日本大学）

通常、バス停で 300m とかで円を引いて、ここは不便地区という形で出している自治体さんもあるが、流山市はバス停から 300m とかそういう形ではなくて、移動そのものにどれぐらい時間がかかるかというのを費用対効果で単価計算、お金換算する。そうしたときに、バスを使ってもタクシーを使ってもどれぐらいの時間費用で移動ができるか。そこを 30 分という 1 つの時間枠を取っている。それで、南流山駅に行くときに 30 分以上の基本的な時間単価がかかってしまうということで数値を出すと、先ほどの 16 ページで、四角い赤いポツポツがでてきている、これはメッシュデータで全部区切って分析するのだが、ここの地区が 30 分を超える形で出てくるところで、交通が不便な地域という形で出てくると。かつ、先ほど私が補足したところは、南流山駅に行きたいという人がほとんどの地域。新松戸に行くとなると、こぶし公園を通るバスを使えば、ここもたくさん便数が走っているので問題ないだろうというところでエリアを区切ってしまおうのだが、その地域に住んでいる人たちの移動目的地がどうやら南流山駅に向き合っているので、そうするとここも今後は赤くなりそうだということで、交通不便地域が拡大する可能性がある。これはここの地域だけに限定したことでなくて、流山市全体をメッシュデータでやったときの 1 つの検討地域の出し方を共通にやってみると拾い上がってくると。その地域の中で住民の方たちが、自分たちは公共交通が不便だよねということで集まった自治会なり町会のところで、公共交通を自治体の検討会の中で導入できるように検討してほしいという要望を上げていくというのが今の段階で、要望を上げるに当たって、今、どういう実態、どういう方たちが困っているの

かということは、その町会内でまずはアンケート調査をしましょうということで今回出てきたところです。

その問題を受けて、確かに問題的なところが見えてきているよねと。でも、先ほど長橋委員が言われたように、10%台で本当に地域の問題として特定できるのかと。あるいは杉浦委員のように、本来この目的地が南流山であるとしても、当初、住まわれているところの問題と、交通空白地域に住まわれている問題と、そこは当初あるということを知った中で選択してきたところの問題。騒音があるところとないところで、居住地域の問題を後付けでするような問題みたいなものと同じような認識になってしまうかもしれないが、そういった地域性だと。具体的に何をこれから持ってくるのかについては、民間バスを延伸させるのか、あるいはぐりーんバスを中に持ってくるのか。いや、それも成り立たなければ地域独自の、タクシーを活用したような仕組みを検討するのかというのは、今後の検討スタイルでいきましょうと、そういう流れを今確認しているところだ。なかなか分かりにくい。

そのほか、いかがか。

#### 杉浦委員（公募市民）

私が取材したら、膝丸という停留所があるのに、ここに行くのが面倒だという話だ。「膝丸は遠いのですか」と聞いたら、「遠い」と言う。要するに、三丁目の中にバスを通せと言っている。もう一つ聞いたのは、信号が変わるのが早いので、お年寄りたちが横断歩道を渡り切れないと。だけど、膝丸というちゃんと停留所がある。これだけでも十分だと私は思っている。では、ないところはどうするの。これを認めてしまったら、後から後から同じような案件が出てくる。認めるか認めないかはこれからの協議なのだが、これが通るのだと。ではうちのほうも協議してもらおうよとなってしまう可能性がある。それを考えて、12.7%で低いよと。確かに私もそう思う。だから、膝丸というちゃんと停留所があるにもかかわらず、それでもバスを通せという理由は、この2日間、考えても考えても出てこない。投票ではないと先ほど申し上げたが、ちょっとその辺、まちづくり推進課の方でも、「ここはこうだから」と教えてあげることも必要だと思う。言い方が悪いけど、論外だと私は思う。バス停があるということは、何をもって考えて言っているのかということを言いたかったのだ。

#### 藤井会長（日本大学）

これも1つの意見ということだ。

そのほか、いかがか。

#### 小西委員（流山市身体障害者福祉会）

18ページの「上屋・ベンチ」などを設置という提案があったと。長崎の諫早のフルーツバス停というのがあるという話をした記憶があるが、個人的な意見だが、ぜひ進めていただ

けるとうれしい。

ただ、このところ、民間事業者が上屋とかベンチというものを設置するものなのか。行政が計画してつくるべきものなのではないのかなと思うのだが、その辺はどうなのか。業者がつくるべきなのか、市のほうでこういうものを設置しましょうということで進めていくのか、教えていただければ。

### 事務局

まず、今回の膝丸バス停については民間路線バスのバス停ということが1つあると思う。民間路線バス、民間事業ということであれば、公共交通ではあるが基本的には民間事業者、バス事業者の負担で設置するというのが基本になると思う。

ぐりーんバスがバス停のすぐ近くにあったりするが、そこについては市が施工することもあり得ると思うが、ここは民間のバス停ということで御理解いただければと思う。

### 藤井会長（日本大学）

そのほか、いかがか。

### 長橋委員（流山商工会議所）

協議となっているが、今回はどこまで協議するのかというところが見えていないので、そこをまず教えていただけないか。

### 事務局

毎度、報告であったり協議であったり、いろいろ申し訳ないのだが、今回のこの件でいうと、報告する事項としてはもう一段落しているということで、まさしく皆様から頂いた意見が協議の内容かなと思ったので、意見を頂くという意味での協議、委員の皆様で協議いただく、意見を出し合っていただくという意味での協議にさせていただいた。

### 長橋委員（流山商工会議所）

それから、膝丸の停留所だが、これは通勤だと6時台、7時台ぐらいかなと思うが、こら辺の乗車率をもしバス事業者さんから教えてもらえるのであれば、日々、何人ぐらい使っているというのを知りたいのと、今、自転車で駅まで行かれている方が、バスが通ったからといって本当にバスに乗るのかなと。自転車で自分の好きな時間帯に行きたいから自転車を使って、その中で暑いとか寒いとか雨が降っている、大変だという御意見なのか、バスが通れば、自転車はやめてバスに乗るよと言っているのか、そこが分からないと、本当にバスを通すと通さないという協議まで進んでいいのかなというのが、ちょっとその点の答えが足りないのではないかなと思う。

### 藤井会長（日本大学）

御指摘のとおりだと思う。潜在的な利用を顕在化するとき、本当にちゃんとモビリティ転換する数が、この数としてのってくるのか。うーんという感じが現実的にある。そういったところについて例えば追加調査をするなど、そういったこと。具体的にはアンケートで聞いているけれども、若い世代であるがゆえに世帯属性としての移動というものをどう捉えているかという集計の仕方と、それから、実際に自転車との併用型で行っているときに、自転車から完全に通勤型に切り替えるのか。天候が悪いときだけの転換なのか、その辺のところの現実味を持った利用ということに特定した形の調査をかけないと、これは実数値が見えないというのが現状だろうと思う。なので、恐らくその辺を、委員の皆様は、もやもやして重ねながらということなので、そういった意見があったことは今回の協議事項の中の非常に大事なところで、それをまた協議会の中では、こういった意見があるので、全体像の公共交通を考える前に、まずはもう一度調査してほしいと、そのようなところの依頼をかけていくことは当然できる話かと思うので、そういう形で事務局では、今回の御意見を集約しておいていただけるとありがたい。

そのほかよいか。これだけでもかなりの時間を要しているところがあるが。

議題2に移りたい。

### ＜議題2 流山ぐりーんバス（美田・駒木台ルート）停留所の新設について（協議）＞

### 藤井会長（日本大学）

「議題2 流山ぐりーんバス（美田・駒木台ルート）停留所の新設について（協議）」、事務局より御説明をいただきたい。

### 事務局

（資料2スライド資料を基に説明）

### 藤井会長（日本大学）

ただいま御説明いただいたように、今回の分科会の中で御意見を頂いて、協議進捗をする。と協議会のほうに諮っていきたい、そういう思いがあるということだ。ただ、この後また交通事業者部会を行う。そこでは、これまでにはバス停の設置に関しては安易にしないようにという御意見が過去にも出てきている。それにこれがどのように関係してくるか、そういったところも議論の中では出てくる可能性がある。

あと、美田・駒木台地区で、今回は美田地区からの要望という形で上がってきているということで、この奥のほうに駒木台があるので、その住民の方たちの意向は今回は反映していない。ただ、これが新設という形になると、駒木台の利用者の上乗せにもなってくる可能性がある。そうすると、収益としては上がってくる可能性がある、そのような案件だ。

それでは、何か御質問があれば。

#### 長橋委員（流山商工会議所）

これも美田の自治会から要望が出たと。1,759人いらっしゃるということだが、これも回答率が17.9%と、低い。自分たちで停留所の新設を要望しているのに回答率が低いというのは、熱を感じないというか、ここは自分たちで要望しているのであれば30%、40%ぐらい回答があってもいいのではないかというのが感覚的なところだが、意見がまず1つと、あとは、23ページの停留所が新設された場合の利用目的で、60%の方が利用しないというのはバス停を利用しないということ。60%の方が利用しないと答えていて、新設するのかと疑問に思ったことが私の意見だ。

#### 事務局

1つ目の回答率については、先ほどと同様、今後の見直しの中で検討していきたい。

2番目の60%が利用しないというのは確かに非常に多いということだが、皆さんから率直な御意見を頂ければ。また、今後協議会等で議決を頂ければと思っている。

#### 藤井会長（日本大学）

この数字なのだが、計算してみると、回答した314人の中で65歳以上の方たちが201人いる。ここに住まわれている65歳以上の方は654人ということで、654人の高齢者の方たちの30%が回答している。それが主たる利用者であるということからすると、先ほどの木三丁目のパーセンテージとはちょっと意味合いが違うかな。実利用者と想定する年齢層の方たちが回答しているというのが特徴的な意見なので、次回以降の改訂計画のときのパーセンテージは、トータルのエリアとしての世帯人口に対する割合なのか、トータル住民のパーセンテージなのか、実利用になる人たちの主目的に利用される方たちのパーセンテージなのか、その辺を仕分けしておかないといけない。なので、その辺はちょっと微妙なところかと思う。

#### 長橋委員（流山商工会議所）

その後のものを見ていくと、高齢の方が使うということとか、そういうものを見ていくと、必要なかなとは思うのだが、60%の人が利用しないと答えたのが、どうも矛盾しているというのが、では要らないのではないかと考えてならない。また、バス停を造るのであれば、市でお金を出したりということもあるし、増加率が見込まれているが、本当に60%の人が反対していて、要らないよと言って、本当に利用が増えるのかは実際にやってみないと分からないとは思いますが、ちょっと疑問だなと。高齢者の方が多い地域なので、矛盾はするけれども設置やむなしなのかなとも思っている。

#### 藤井会長（日本大学）

そこは思い、御意見ということで。

その他、いかがか。

#### 小西委員（流山市身体障害者福祉会）

私も、対象者を美田自治会に絞っているのが1つは問題がありそうな気がしている。もともと、ぐりーんバス協議会というのは、青田・青田第一、駒木台第一、駒木台第二など沿線のルートの方が入っているのだが、今、新しくつくろうとしているところは病院、あるいは飲食店があるということで、当然、美田の自治会の人たちだけではなくて、その奥のという表現がおかしいが、ほかでも利用したいという方も当然いるのではないかと思う。その場合にどういうアンケートの仕方をすればいいのか、よく分からないのだが、広げて考える必要があるのではないか。

あと、23ページの「利用しない」という60%の件なのだが、私の意見だが、60%の方が利用しないということは、逆にいうと40%の人は利用したい、するかもしれないといとおっしゃっているわけだから、この辺は数字上で、多いから少ないからというような判断はちょっと難しいのではないかと思っている。

31ページの、これまた数字の話で恐縮だが、年間最大で6,950人の増加を見込んでいる。想定される運賃収入の125万820円というのが片道だけを想定していることの原因がよく分からないのだが、多分最大の増加人数に180円を掛けた数字なのだろうと思うが、行ったら帰ってくるときもぐりーんバスを利用するのではないかという、単純に私は思ったものだから、この辺の理由というか、こういうわけで180円を掛けたというようなことがあるのであれば教えていただきたい。

#### 藤井会長（日本大学）

片道運賃が180円という理解か。——それを含めて御説明を。

#### 事務局

1点目の、アンケートが美田自治会のみということなのだが、他の自治会はということだが、組織としては6自治会ほどあるので、確かにこの辺のアンケートを求めるというのも1つの方法だったかもしれないが、そういった基準がなかったので、現状はこのような形で受け取った。

ちなみに、美田自治会は高齢化率としては40%ほどあるのだが、要は65歳以上の人が40%ほどいらっしゃる。北側の駒木台や青田という地域も、年齢構成は65歳以上が40%ということで、年齢構成が似通っているということまでは今把握している。

そして、2番目の、23ページ、60%が利用しない、40%が利用する方ということで、そこは御意見を承った。

3 点目、3 1 ページの計算なのだが、1 8 0 円というのは片道最低運賃だ。美田自治会の方が今回アンケートに答えているので、新たに要望しているバス停を結んだとき、これ1 8 0 円という最低運賃という形で想定している。ただ、年間の収入額については美田自治会の方だけという形で想定はしていない。例えば駒木台、青田など、人の動きを全て想定した上で、この運賃収入は割り出しているので、ここに書いているのは最低運賃の考え方ということで御理解いただければと思う。

#### 藤井会長（日本大学）

駒木台を含んだ形の総利用としてのシミュレーションという形が出てくる。事務局としては、他の地域に同様なアンケート調査をかけていくという考え方はお持ちか。

#### 事務局

まさしく、本日、そのような御意見を頂いたので、今回の協議結果の報告を地元にするともに、そういった取組ができないか、声をかけてみようと思う。

#### 藤井会長（日本大学）

やはり、沿線全体としての必要性を問うことは大事なような気がする。ぜひ御検討いただければと思う。

#### 長橋委員（流山商工会議所）

2 3 ページの、利用しない人1 9 2 人の、この後、クロス集計で年齢分布を出してもらえないか。何歳の人が「利用しないよ」と言っているのか。多分これ、逆を出せば、クロスしていくと年齢の高い人が多分4 割ぐらいは使っていて、その中で高齢の人が1 0 割ぐらい使わないのかなというようなことが見えてくると思うので、それを出していただければと思う。

#### 藤井会長（日本大学）

基本的には、この3 0 7 人、駅まで直通で行くという、その利用者も全部含まれているので、今は目的外移動みたいな形で分けていく、それから年齢で分けていく。実際に新設したときに使う人たちの層がどれぐらいのパイとしてあるか、この辺はある程度事務局で押さえないと、どうしても議論できないということで、その辺は確かめていただければと思う。

そのほか、いかがか。

#### 吉野委員（公募市民）

吉野だが、今の話に関連してなのだが、確認だが、2 3 ページに関しては、特に使っていない方も含めて3 0 7 人の中には入っているという認識でいいか。アンケートに答えた方

は全部入っていると。ということは、もしかすると、使っていない方もいらっしゃるし、例えばおたかの森駅東口に行っているような方々も含まれているということを考えると、もしかしたら、例えば隣接している東初石五丁目とか、ほかの停留所と比べたときに、意外とこれを足し合わせたものがボリュームとしては大きいみたいな可能性もあるのかもしれないので、仮にこれを使って利用されている方の利便性を高めていくという御説明をもしされるのであれば、ポジティブな見せ方が何かあるのではないかとは思ったので、その辺、いろいろ考察される中で御検討を頂ければいいかなと思った。よろしくをお願いしたい。

#### 藤井会長（日本大学）

その見せ方というのはすごく大事だ。6割も使わないのなら要らないではないかと思ってしまうのと、実際に使われる可能性がある人を絞ってみると、こんなに期待されているということとは、見せ方が全然変わる。その辺ぜひ、事務局、検討してほしい。

#### 杉浦委員（公募市民）

「広報ながれやま」というのがあって、私はプリントアウトして保存しているが、まず、字が見えない。だけど、こういう重大なことはスペースを取ってでも出すべきだと思う。読みづらいときがある。市民は実際にぐりーんバスは知っているけど、収支決算はこのような状態だよと知らせるべきことは知らせるということもしないと、年寄りはいだんだん目が衰えてくるから、「いいや」で終わってしまうときがある。もっとスペースを取ってやるべきだと思う。だから、結局、何も知らない人は、「ああ、そうなの」で終わりだ。市民から預かった税金を投入してやるものだから。自分の納める税金が運用されているのだから、このように有効に使われているのだということの表明でもあるわけではないか。一回、広報課に「字が小さ過ぎて分からない」と言ったことがある。それは重大なことだから、1年に一度出すのであれば大々的にやるべきではないかと思う。知らせめることも大事なのだから。それは考えていただきたい。

#### 藤井会長（日本大学）

今回のことは別に、一般的な考え方で、別の自治体でも似たようなことがあって、今はひろげれば見えるから大丈夫という回答があって、どうかなという気がしているのだが、ちょっと余談だった。

そのほか、どうか。

#### 町山委員（市民活動団体 親子サロン BLOOM）

ちょっと気になったところだけ何点かあったのでお聞きしたい。

まず、アンケート調査の回答者数が17%ということで、これは自治会の回答だと思うのだが、例えば私が住んでいる自治会は加入率がそもそも30%しかなくて、そこからの人数

換算となると恐らくすごく低くなってしまうのかなと思って、一概に自治会の回答率が17%、先ほどの12%というのは、それだけでは見えないところがあるのかなと、自分の自治会に置き換えたときに感じたところで、かといって違うよい見方があるわけではないのだが、ちょっと気になった。

それから、23ページについて同じ意見だが、これはすごくネガティブに見えてしまって、見せ方は注意したほうがいいのかなと思った。

あと、このバス停の位置は私もよく通るところで、確かに駅からすごく遠いなという印象があって、そこに大きい公園もあって、私の子どもが小さいときに、行きたいけど、遠過ぎて行けないということもあったりして。周辺に新しい家がいっぱい建っているし、今、美田・駒木台地域の自治会の話だったが、実際そこに設置するときに恐らく設置位置の周りからも、賛同の意見とかもあったりするのではないかなと思っているので、そういった意見があったら、もう少し前向きな意見が出てくるのではないかなと思った。

#### 藤井会長（日本大学）

住民基本台帳だから、実際に地域に住まわれている実人数に対する回答率となっているので、加入者数とはまたちょっと別の数字という理解だ。

#### 町山委員（市民活動団体 親子サロン BLOOM）

アンケートをしているのは自治会か。

#### 事務局

アンケートを取ったのは自治会で、恐らく自治会員のみ配布している。

#### 町山委員（市民活動団体 親子サロン BLOOM）

そうなると、私の地区だと恐らく率がすごく低くなってしまうのではないかなと思ったので。

#### 藤井会長（日本大学）

どの自治体でも悩みどころ。東日本大震災以降、ぐーんとまた加入率が下がってきている。一時期ぐっと上がったのだが、また災害で少し上がるかもしれない。大変難しい。

そのほかいいか。それでは、たくさん意見が出たので、こちらはまた御意見として承って、次の分科会もしくは協議会に反映していきたい。

#### <議題3 流山市地域公共交通計画の見直しについて（協議）>

#### 藤井会長（日本大学）

少し限られた時間になってしまうかもしれないが、本当はここが議論の中心のところだったのだが、「議題3 流山市地域公共交通計画の見直しについて（協議）」、事務局、説明をお願いします。

## 事務局

（資料3 スライド資料を基に説明）

## 藤井会長（日本大学）

今日は改めてという形で初めて紹介されたところだが、全体としてどの関連からでも結構だ。御質問、御意見等があれば承りたい。吉野委員。

## 吉野委員（公募市民）

何点かあるので前の方からいくが、2ページに関して、公共交通検討地域に限らないということに対して、私としても賛成ではあるのだが、というのは、先ほどのぐりーんバスの話の中でもあったが、ここで定めている公共交通検討地域を算出するに当たって、設定している拠点というものが先ほどの新松戸と南流山みたいな、実際の実態と異なる、そのような可能性があるのであれば、この検討地域に限って検討し始めてしまうと非常に危険なのかなと思ったので、ここについてはそちらでいいのではないかと個人的には思った。

3ページ目と5ページ目に絡むところではあるのだが、収支率50%の基準というものが今までの検討の中で合理的だという御説明をされてきていて、「合理的」というのはいろいろな考え方があるよねと思いつつも、今50%を閾値にしていろいろな検討を進められていて、一通り運用ができていますので大きく変える必要はないのかなと思いつつも、5ページ目のところであったが、自治会に負担を求めるみたいな話。地域の協議会の方々が運賃収入だけで50%を維持しようというふうな頭にならない工夫が何となく必要ではないかと思っていて、例えば、ただ利用したい方が乗るだけではなくて、その方が乗ることによって家族の方が送迎しなくてよくなるとか、健康寿命が延びるとか、安全・安心に寄与するとか、いろいろな地域の居住者の方や地域の団体の方々に対して何かしら貢献があるはずなので、ただ、それは普通に生活しているとあまり実感としてないような気がする。そこは今後フローの中で検討する際に行政の方々が情報提供するとか、こういう考え方もあるみたいな、そういうプッシュで支援していくような仕組みができないかなと考えた。フローの中でそういうアドバイスみたいなものがあってもいいのではないかと思った。

6ページ目、代替交通の公的負担の考え方のところ、「代替手段ごとに検討する」と書かざるを得ないことは理解しつつも、ぐりーんバスは50%が応分の負担で合理的だという説明をされている中で、ここはもともとそういう記載をしていたから誤解を招くということとは理解しつつも、無視していいのかということが少し気になった。多分、乗合タクシーとか今実証実験をされているが、50%どころではなく、もう数パーセントとか、その話だ

と思うので、そういうものを救済するということだとは理解しつつも、基準が複数あると混乱するなと少し感じた。

7ページ目だが、言葉のつけ方だけの話だが、今回、3つ公共交通型などを挙げていただいているが、例えば福祉交通等というところで、先ほど言われていたバスへの混乗とか、福祉有償とか、そういったものは何となく公共交通型のイメージが頭の中には湧くのだが、その一方で、互助、共助と言われるとボランティア輸送みたいなものを私としてはイメージする。この辺り、言葉のつけ方というか定義が分かりやすくなると、自分が考えているものがどれに該当するのかというのが少し分かるようになるかなと思った。

最後の自立型のシェアモビリティだが、例えばシェアサイクルポートを今後地域の方々置いてほしいみたいなことがあるかもしれないが、それは「代替手段の導入検討フロー」を経ないと置けないのか、それとも、もう少し気軽に置けるものなのかが少し気になったのだが、この辺りはどうか。

## **事務局**

1点目は、2ページの御意見ということで承った。

2点目の、3ページ、5ページにわたる50%という基準の考え方、確かにおっしゃるように地域の利便性が向上することは明らかになると思う。アドバイスの明記の仕方については考えていきたいと思うが、なかなか、考えたものの、具体的にお示しできなかったというのが正直なところで、自治会への負担金を明記しなかったのも、そういう意図があるということとは御理解いただければと思っている。

市の税金が半分以下という補てん額に収めているその中に、自治会負担というものが入る考えもあるし、いろいろ経費の財源が明記できれば理想的だとは思うので考えていきたい。

3点目は6ページ目に該当するものだと思うが、「代替手段ごとに検討する」という曖昧な基準の設け方、逆に基準が設けられていない。おっしゃるように現状の乗合タクシーを実証実験を受けて、やや、そういう部分を含めた言い方もあるかもしれない。これまでの考え方を、ぐりーんバスの水準を基本とするという、これは50%という。何の考え方なのかはあやふやな部分があったかと思う。その表現を変えただけであって、数値化するのは正直難しかった。できるかどうかはもう一度考えてみるが、やはり代替手段もいろいろな方法があると思う。地域の需要等によって変える必要があるのではないかという提案も含めて、このような表現を挙げさせていただいている。

4番目の御質問、7ページになると思う。見直し案で赤く囲った部分の真ん中の部分、「互助・共助型」「福祉交通等」という表現にした。公共交通とも見れる乗り物、移動手段があるのではないかと。例えば「公共交通型」と「互助・共助型」の仕組みの違いは、運賃が発生するしないというのもあるのかもしれない。ただ、福祉交通には、福祉タクシーとかそういったものもあるので一概には言えないが、そういったものが分かりやすくできるような

表現にもう少し工夫、検討はしたいと思う。

最後に「自立型」に関して御意見を頂いた。シェアモビリティ、既にシェアサイクルは導入しているが、これは選択肢としてあるかというのと、そういうわけではないかもしれない。地域から公共交通導入について要望があった場合、こういったシェアサイクルがあるのだということを提言というか、提案できればということで入れてみたが、例えばシェアサイクルで公共交通に関する利便性が向上する。住民の要望等が賄えるものであれば、これも選択肢としてあるのかなと思った。

ただ、「自立型」に関しては、ここの協議会にかけないといけないというわけではないと思う。その部分については、今日御意見として頂いたので今後検討はさせていただく。

#### 藤井会長（日本大学）

実際に、自治会負担でいくかどうかということ、ここは他の自治体さんでは地域のサポーター基金とか、あるいは民間事業者さんからのサポーター費用、そういったものを合わせたもので埋めていくというやり方もあるし、あとは、柏市さんのように、交通のモビリティに合わせて実証実験の段階から本格運行になる3年間の計画の中で、パーセンテージ、収支率の設定を変えていく。このような考え方を示しているところもあるので、その辺は、50%というのが千葉県の中では最も高いところで、柏市さんは30%台だ。あと市川市さんも今40%を下げようということを考えているので、頑張るぞという公平の概念というところで、流山は「勢いのある流山」ということで、このままかなという気はするが、その辺についてもぜひ、周辺の取組と、あと書込みの仕方を検討してみただければと思う。

そのほか、いかがか。

#### 吉野委員（公募市民）

2ページ目だが、今後ぐりーんバスのバス停の見直しに関してのところ、左側のアンケートで回答があったと思うのだが、要約①の検討地域以外でのバス停設置はそもそも反するのではないかと御意見が、仮に交通事業者さんから御意見が既に出ているのであれば、見直しに当たっては検討を、見直しができないような状況になりそうな気がするのだが、この辺りの発言が交通事業者さんからは特段、許容できるような御意見なのか、その辺りについて実態としてはいかがか。

#### 事務局

この発言がどなたかからかというのは共有はさせていただいてはいないものの、この意見が今後どうなるのか、この後の分科会でまた御意見を頂いた上で共有させていただきたい。

#### 藤井会長（日本大学）

というのは、議題2、先ほど新設のバス停があったが、あれは検討地域の中に置くものではない。ただし、検討地域の方たちが使っているところの利用目的がバス停がないところなのだとすることで、他の一般の利用が少ない地域ということで交通事業者さんの影響が極めて低いということを見せながら、ある意味、新バス停を認めていただいこうというのが先ほどの議題2だった。そういった中では、そういった可能性が今後もあるかもしれない。そういう面では一律にバス停の新設をアウトにすることが本当にいいかというと、そこはちょっと考えないといけない。ただし、新規需要という形で交通事業者さんに影響を与えるようなバス停の新設に関してはノーとして止める必要があるというところでの枠組みとして「交通事業者への影響」というキーワード。どこまでという基準までは設定していないが、そこを調整できる場を残しているのが現状かなと。あとは、これをどのように事業者さんが受け止めるかというのはこの後。また次回の分科会ではその辺の空気感を含めて御説明できるかなということかと思う。今の段階ではそこまでしか言えない。

#### 小西委員（流山市身体障害者福祉会）

50%の話については前々からお話をしているつもりだが、3ページの「ぐりーんバスの継続判断」の「その他」で50%という基準が云々であるとか、あるいは、4ページの「その他」の、この辺の意見をどこか、見直し方針の中にぜひ組み込んでいただけないかなというのが私の気持ちだ。

あと、4ページの見直し案の赤でくくった部分は、どこが違うのか私は気がつかなかったのだが、2年度あるいは3年度という、この限りという説明があって、これはよく分かった。

6ページの見直し案の中に、話が戻るような形になるのかもしれないが、「公的負担の考え方」の中に流山ぐりーんバスの水準に従わないみたいな、そういう面を入れることはできないのか。

#### 藤井会長（日本大学）

50%を下がってはいけないということを書こうという意図かな。

#### 小西委員（流山市身体障害者福祉会）

ほかの手段になった場合に負担額が極端に増えるのも出てくるのではないかなと思う。だから、少なくとも今の水準は最低限として、それを超えるような負担を強くないというような方針を入れられないかなというのが私の気持ちだ。

#### 藤井会長（日本大学）

いかがか。

#### 事務局

1点目の、3ページに該当する50%基準の考え方を計画の見直しの中でどのようにうたっていくか、意図を酌み込めないかということだと思う。3ページの左下に、今御意見をいただいた「その他」の中に、50%という基準が財政的観点なのか福祉的観点なのかが不明確ということもあった。50%の根拠は口頭では説明しているものの、計画にはうたわれていない。半分は受益者の負担、半分は市の負担ということで、半分以下が市の負担。そういった意味では、財政的な観点ということももちろんあるとは考える。これを計画に明確化できれば意図が読めるのかなと思うので、これは検討させていただきたい。

3点目の、6ページの見直し案に関して「公的負担の考え方」、恐らく小西委員がおっしゃるのは利用者に対して負担を増やさないことが表現としてあるといいということだったので、この考え方をもし反映できればということで検討したい。

#### 藤井会長（日本大学）

それでは、今日はたくさん御意見を頂いた。協議会に向けてという形で、市民部会としての意見をまた事務局で取りまとめていただこうと思うので、どうぞよろしくお願いする。

では、事務局のほうにこの後の進行を戻したい。ありがとうございました。

#### <その他>

#### 事務局

まず、傍聴の方の退出をお願いしたい。

（傍聴者 退出）

#### 事務局

その他、報告、連絡事項のある委員がおられたら、挙手をお願いしたい。

#### <閉 会>

#### 事務局

それでは、以上をもって「令和8年度流山市地域公共交通活性化協議会第2回市民分科会」を終了する。

なお、次回の分科会については10月5日月曜日の午後1時から、同じくこの上下水道局で開催を予定しているので御出席をお願いしたい。

本日はありがとうございました。

以 上